

プロジェクトタイトル	榎本石鹸の改良と商品化検証 ー化学・歴史学・商学による文理融合研究ー
プロジェクト代表者	沼田 ゆかり

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトでは榎本武揚が書き残した「石鹸製造法」および榎本の兄が創設した江水舎が開発した石鹸をもとに開発した復刻版・リニューアル版榎本石鹸を改良し、商品化へ向けて使用感等に関するアンケート調査を実施することを目的とする。榎本武揚は、小樽における不在地主として本市の発展に大きく貢献したことで知られるが、本学前身である高商を誘致する際に寄付活動を先導するなど本学とも深い関わりがある。昨年度のプロジェクトでは「石鹸製造法」を読解し復刻した成果をもとに、復刻版とリニューアル版榎本石鹸を委託製造したが、商品化には製造に関する課題が残っていた。本プロジェクトは、榎本の化学者の特性を歴史学と化学の双方から分析する学際的な研究成果の一部を、マーケティングの専門知識により地域活性化のために活かそうとするものである。

2. 具体的な取組内容

課題であった石鹸の改良について、昨年度製造委託した旭川市の化粧品 OEM 会社と打ち合わせを実施し、試作改良品の製造を依頼した。しかし、石鹸が変色するという課題を解決することができなかった。そのため、札幌市の化粧品 OEM 会社(株) Savon de Siesta に相談し、課題の解決に向けた打ち合わせを実施した。(株) Savon de Siesta からは酸化防止剤として配合していた一部の配合物を添加しないことで、変色しない石鹸を製造できそうだと回答を得た。そこで、復刻版およびリニューアル版の試作品製造を依頼した。さらに、より一般に受け入れられやすい石鹸として、香りつきの石鹸も新たに試作製造することとした。榎本が好きだった「牡丹」の香りをイメージした精油と、酒豪だった榎本に因み小樽市の田中酒造(株)の日本酒を配合、原料油脂成分の見直しも含めて、よりしっとりとした使用感の石鹸にした。新たに開発した香りつき石鹸のパッケージデザインを小樽市のうながぶらす(株)と協力し、製作した。

2024年2月12-13日にうながぶらす(株)の店舗「小樽百貨 UNGA↑」(小樽市色内2丁目1-20)にてテスト販売を行い、店頭にて購入時アンケート調査を実施し、同時に Web による使用後アンケート調査を依頼した。現在、購入前アンケート調査の分析に取り組んでおり、また、使用後アンケート調査の回答については受け付け中である。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

3種類の榎本石鹸を製造し、テスト販売および、アンケート調査を実施した。本プロジェクトに関して今年度は、インターネットメディア1つ、新聞2社、ラジオ放送局1つからインタビューや取材を受けるなど、大きな注目を集めている。今後はアンケート調査結果をもとにさらに改良し、小樽のお土産や大学グッズとして商品化につなげたい。

榎本石鹼 リニューアル版(敏感肌)の特徴

原料油脂：アーモンド油(スーテアマンドル油)

ヤシ油、パーム油、オリーブ果実油、ヒマシ油

製法：コールドプロセス製法(冷製石鹼ノ製法)

<パッケージ裏面 説明書>

「榎本石鹼を現代風に甦らせたい」という思いから、小樽商科大学歴史学ゼミと化学ゼミの文理融合研究の成果である榎本石鹼復刻版をベースにつくりました。ふくよかな泡が肌を包み込み、うるおいを残しながら洗い上げてくれます。敏感肌の方にも使いやすい無香料タイプの石鹼です。



榎本石鹼 リニューアル改良版(牡丹の香)の特徴

原料油脂：アーモンド油(スーテアマンドル油)

ヤシ油、パーム油、オリーブ果実油、ヒマシ油、
シアバター(シア脂)

その他配合物：酒豪だった榎本にちなみ小樽・田中酒造の日本酒
(コメ発酵液)

榎本が好きだった牡丹をイメージした精油

製法：コールドプロセス製法(冷製石鹼ノ製法)

<パッケージ裏面 説明書>

榎本武揚が好きだった牡丹の花をイメージし、泡立たせるたびに華やかな香りが広がります。乾燥から肌を守るシアバターも配合し、しっとりした洗い上がりです。酒豪だった榎本に因み小樽・田中酒造の日本酒も配合し保湿度を高めました。



榎本石鹵

—小樽高商時代の石鹵作りの伝統が今甦る—

販売期間

2024年2月12日(月)～2月13日(火)

@小樽百貨 UNGA↑ (うんがぷらす)

小樽市色内2丁目1番20号

<https://unga-plus.com>

